

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	025	河川	施策	070	治水・河川環境の整備	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	----	----	-----	------------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
151	河川環境の改善・水害防止と、自然河川づくりを推進します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	河川環境の整備（単位：箇所）	3	2	1	0	0	0	0	0	0	基準値：H25 ※河川浚渫等
	自然河川の整備（単位：件）	0	2	2	2	2	2	0	0	0	基準値：H25 ※ハサンベツ川及び支流環境整備
	円山地区排水路修繕工事（単位：件）	0	1	1	1	1	1	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	円山地区排水路修繕率（単位：％）	250	28	28	0	0	0	0	0	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	流水機能を確保することは、水害防止にもなり町民の安全が守られる。 ハサンベツ地区における自然環境の整備は、自然体験等の貴重資源と考えられる。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	町河川においては町の管理が当然と考える。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	町河川の維持改修には他事業も無く、代替案も無いため最適な実施方法と思われる。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	主に道単価、歩掛等を使用した改修しており適切と思われる。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	水害等から町民の生活を守るとの観点から、特定の個人団体には偏っていない。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	町内会・自治会からの整備要望の提出してもらい、改修・修繕の必要な箇所について把握しやすくなった。
課題・問題点	パトロール等の目視で確認出来ない部分も多い。延長も長く、年々要望箇所が増えており、限られた予算の中では対応出来ない箇所多数。
改善策	定期的に河川環境の集中確認等、より細かく確認作業をするしかないのでは無いかと思われる。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める 河川環境の適正な維持管理を図るため、定期的なパトロールによる確認作業及び計画的な整備を行うとともに、ハサンベツ川及び支流の環境整備を計画通り進めること。併せて、国・道管理河川の適正な維持管理並びに魚道整備など豊かな川づくりに向けた要望活動を展開すること。
2 次 評 価	※事後評価につき対象外
外 部 評 価	※事後評価につき対象外
最 終 評 価	※事後評価につき対象外